

会 議 録 要 旨

会議名	令和3年度 第2回藤沢市下水道運営審議会		
開催日時	2021年（令和3年）5月12日（水）午前9時59分～午前11時37分		
開催場所	本庁舎5-1, 5-2会議室		傍聴者数
			0人
出席者	会長	杉渕 武	
	委員	井上 美鈴 大内 禎 小野島 真 齋藤 力良 重田 和恵	
		野牧 喜久江 深澤 潤子 宮治 八千代 三輪 晋 矢出 乃大	
事務局	鈴木下水道部長 [下水道総務課] 近藤参事・指旗主幹・濱野主幹・細谷主幹・小川補佐・工藤補佐 利根補佐・外山専任補佐・矢口上級主査・三澤上級主査 吉原専任上級主査・松本主査・松田主任・田中担当・茂垣担当 [下水道管路課] 中村課長・藤原補佐・小松補佐 [下水道施設課] 真間参事・竹内辻堂浄化センター長・一ノ瀬大清水浄化センター長 佐藤補佐・田中補佐・斉藤補佐		
議題及び公開・非公開の別	1 令和3年度藤沢市下水道事業運営について（公開） 2 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について（公開）		
非公開の理由			
審議等の概要	<p>《議題》</p> <p>1 令和3年度藤沢市下水道事業運営について 資料1に基づき説明。</p> <p>【質疑】</p> <p>(1) 資料1の5経営指標「経費回収率」の令和2年の見込みについて、グラフを見ると平均より高くなりそうな傾向に見えるが、類似団体の平均値の動向を教えてください。 《回答》 まだ全国的に公開されておらず数値は把握できておりませんが、国は経費回収率100%になるよう、一般会計からの基準外繰り入れに頼らず健全経営をすべきという方向性になっています。</p> <p>(2) 類似団体平均をみると100%周辺なので、106%となると経費回収し過ぎな感じがするがどうなのか。 《回答》 経費回収率が高い（利益を出し過ぎる）のはよくないと思います。ただ、将来に向けて長寿命化等の改築のため資金を積み立てていくことも必要かと考えます。</p> <p>(3) 裏面の収支不足額の補てん財源で、当年度発生留保資金は何か。 下水道会計は非常に分かりづらいので、会計上の処理を記載したほうがわかりやすくなるのでは。 《回答》 収益的収支総括表の支出の減価償却費と、収入の長期前受金戻入は、現金の支出を伴わないもので、減価償却費から長期前受金戻入を差し引いた額が資本的収支の不足の財源となります。説明を加えて分かりやすい資料にしたいと思います。</p> <p>(4) 収益的支出の特別利益は、東日本大震災の損害賠償金とは何か。 《回答》 汚水に放射性物質が含まれており、その汚水を償却した灰の処分費用や保管費用、放射性物質の測定費用などを賠償について求めています。</p>		

(5) 経費回収率はどのように計算しているのか。

《回答》

総括表は税込みとなっているため、まず税抜きにしますと、下水道使用料が約5.7億円、支出全体が約11.4億円となります。支出のうち汚水処理費は約5.4億円(全体の47%)となります。(下水道使用料÷汚水処理費×100)

(6) 汚水処理費に対して下水道使用料が多いので、下水道料金を上げることはこれから考えないということによいのか。

《回答》

2年前に使用料見直しを行った際、3年間(令和2～4年)は100を超える見通しでしたので、おおむね現実的だと捉えております。ただ、令和2年度のコロナの影響により水量変化など不安定な点もあり、決算の状況を見てみないとわからない状況です。

【意見】

経営指標の説明は、もうすこしわかりやすく今後工夫をしてほしい。

2 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について

【下水道ビジョン改定について】 資料2-1～3に基づき説明。

【質疑】

(7) 推進方策の例で、「藤沢市型アセットマネジメントの導入」のうち「新しい業務スタイル【柔軟・連携】」は、アセットマネジメントと業務スタイルとの関連性がどのような形なのか。また、新技術の活用は重要だと思うが、例がなく漠然としていて分かりづらいので補足してほしい。

《回答》

議論はこれから行いたいと思っており、推進方策は例示としています。①藤沢市型アセットマネジメントの導入の新しい業務スタイルの柔軟は、従前の考え方ややり方に固執することなく、変化を許容し柔軟に対応していくというイメージを、連携は他の自治体との広域化・共同化、民間企業とのさらなる連携を進めていくというイメージです。今後設定する事業のうち、どの事業が新しいスタイルが該当するかを明らかにしていくことで、事業設定の妥当性が確認できると捉えております。

(8) これから優先順位を決めるとのことですが、具体的にどのような形で決めていくのか。

《回答》

施策にぶらさがる事業を抽出し、何を優先すべきが基本的な考え方を示し、事業の優先順位を設定していきます。

(9) 資料2-3の領域7汚水処理施設の普及は、課題解決の考え方に早期普及とあり、施策(案)では(12)汚水処理施設整備手法の最適化とあるが、汚水処理施設というのは、家庭の汚水処理施設をイメージしているのか、それとも処理場の施設をイメージしているのか。汚水処理施設と表現すると、ハードをイメージするが。

《回答》

事業(例)の汚水処理施設整備構想の策定(見直し)は、汚水処理施設の公共下水道と合併処理浄化槽の線引き(公共下水道で整備すべき区域)を見直しするか検討が必要というものです。最適化については、官民連携手法(DB等)による汚水整備があり、工事の設計、積算、施工を民間の力を活用した手法を検討するというものです。表現は再考します。

【意見】

汚水処理施設という言葉の捉え方が、一般的なイメージと専門的に使っている言葉で紛らわしいところがあるため、文言の整理をし、市民の方にわかりやすく工夫をしてほしい。

(10) PDCAとは何か。

《回答》

Plan Do Check Actionの頭文字で、進行管理のことを示しています。計画を立て実施(Do)し、評価(Check)を行い、改善(Action)し次のサイクルにつなげていくサイクルです。資料に説明を追加します。

(11) 資料 2-3 の領域 3 大規模地震への備えでは、(6) 下水道施設の計画的な地震・津波対策の推進と(7) 大規模地震に備えた事前予防対策の導入と推進は、ハードとソフトの分けなのか。

《回答》

(6) 下水道施設の計画的な地震・津波対策の推進は、ハード対策です。事業(例)では、上 2 つの管路施設の耐震化と処理場、ポンプ場施設の耐震化となります。(7) 大規模地震に備えた事前予防対策の導入と推進はソフト対策で、事業(例)の 3 つ目以降を羅列しています。

(12) 資料 2-3 の推進方策(例)で、②将来を見据えた下水道システムの最適化が他の項目と比べると若干内容が異なると見受けられるが、どのような考えか。

《回答》

共通する課題で重要視しているため他の推進方策(例)とは性質が違うところがあるため「など」と表現しましたが、区分し表示することを検討します。

【コメント】

経営基盤の強化では非常に大事なところなので、収支の部分の持続可能な運営形態の構築といった実践的な部分だけでなく、社会や環境変化に対応し持続的に運営していくという意味も含まれているので、その説明を詳しく入れたほうがよいのでは。

《回答》

収支の部分は、中期経営計画の中で事業とお金が連結した説明をさせていただきます。

【コメント】

水環境の保全では放流水域の適正維持について、法の基準もしくは処理場での管理基準をもう少し厳しくした数値を採用するか検討していただきたい。

《回答》

環境の法令基準を守るだけでなく、さらなる水質の向上のための運転管理を現状でも行っており、今後も継続していくことを目標としております。

その他

(1) 令和 2 年度の下水道使用料について

【質疑】

・全国的に神奈川県は料金が高いのか。

《回答》

全国の資料がなく、県内では中程度の料金体系となっています。

・下水道料金は各市で決めているのか。

《回答》

各市町村が独自で決めています。3～5 年の収支計画を立て、収支均衡となるよう料金体系を定めています。

・水道料金とリンクしているのか。

《回答》

料金はリンクしていませんが、水道の水量に応じて下水道使用料を決めているため、料金を頂く部分は連携しています。

【水道営業所長より補足】

上水道と下水道の料金については直接関連性はありませんが、水量は上水道で検針した水量を基に下水道料金を算定しています。また、上下水道料金を一括して企業庁(県)が徴収しています。

資料を見ると藤沢市は、平成 28 年度から令和元年度まで使用水量が増加していますが、県営水道(12 市 6 町)全域では平成 4 年度以降減少しており、給水人口は伸びているものの給水量は減っている状況です。藤沢市はまだ発展を続けられている都市だと思えます。